

那賀町議会から お知らせ



那賀町議会：ホームページアドレス
http://www.town.tokushima-naka.lg.jp/gikai/

那賀町高校生議会

令和5年7月26日に那賀町高

校生議会を開催しました。

4名の高校生議員が登壇し、高

校生の視点に立った町政に対する

疑問、御意見及び御提案などに

ついて一般質問を行いました。

主な質問と、これに対する長や関係課等の
答弁の要旨は次のとおりです。



末崎旭高校生議員

那賀町の道路補強について

Q 最近、道路の陥没や崩落が多く起きていますが、行政では道路の現状についてどれだけ把握されているのか。その道路の対策は。陥没した道路は埋めたり補強できるが、それだけでは数年後にまた陥没してしまふ恐れがある。この根本的な解決方法はお考えか。

上田善浩建設課長

A 道路の現状は、道路パトロールや道路利用者からの情報提供などで把握している。道路構造物に変状等のある場合、道路維持修繕工事や災害復旧工事などで修繕及び復旧を行っている。原因が明らかでなく変状を繰り返す場合は、専門知識を有するコンサルタン会社に調査を依頼し、根本的な原因を排除した上で工事をやっている。

那賀町のゴミについて

Q 十年前に比べ、町内ではたばこの吸い殻やビニール袋等人為的要因でゴミが増えたように感じるが、町でゴミ回収はどのようにされているのか。現在の方法より効率的に回収することは可能か。また不法投棄を抑

制する対策を伺う。

北谷楨文環境課長

A 町内のゴミは、ゴミステーションで回収され、クリーンセンターで集積、分別し焼却処理及び再資源化を行っている。ゴミの回収方法は、随時改善をしており、今後も町民がより利用しやすい方法を考える。不法投棄は、捨てる人の意識が原因であり、広報や周知により意識を変えることが抑制につながると考える。

那賀町のバスについて

Q 那賀町では高齢化が進んでおり、車や自転車ではなくバスを利用する人も増えているが、「バスの本数が少ない」という声をよく聞く。バスの本数を追加してほしいが、どうか。また、可能であれば、バスの時間は利用者の声を反映していただきたい。

湯浅正恵住民課長

A バス利用者は、年々減少しており、バスの増便は難しい。高齢化に即した新しい公共交通の構築を検討する。新公共交通の構築に当たり、町民の意見を取り入れながら、その利用時間帯の設定等も含めて、公共交通全体を見直す。



井本啓太高校生議員

鷲敷地区のガソリンスタンドの状況について

Q 「鷲敷地区にガソリンスタンドが建設される」という新聞記事を見たが、工事の計画はいかに。またガソリンスタンドの設備や利用方法、運営会社、営業時間について伺う。町では高齢者が多く、自分で給油が困難な人もいるため、店員が対応してくれることを願う。

三好俊明まち・ひと・しごと戦略課長

A SS 過疎地対策計画に基づき設計、建設が進められている。ガソリン、軽油、灯油の3油種を取り扱い、洗車機の設置も予定している。指定管理者制度を予定しており、営業時間等については協議の上決定し、当面はセミセルフでの給油を予定している。

那賀高生の昼食について

Q 現在那賀高校ではパンなどを売りに来ているが、キッチンカーにも来ていただくことは可能か。また、現在高校の食堂で昼食を食べられるのは寮生だけである。我々寮生以外の学生も那賀町の食材を使った、那賀町のおばちゃんが作った御飯を食べたいと思うが、対応可能か。

高岡勇人教育次長

A 学校での訪問販売や校内食堂の利用については、衛生管理や業者の意向に加え、学校食堂での調理員、使用食材の確保のほか、経営面等も学校が判断される問題と考える。生徒会などで協議された上で、学校へ要望してほしい。



宮繁秀人高校生議員

那賀町の観光PRについて

Q 現在那賀町の観光PRをどのようにされているのか。若い世代はInstagram、TikTokをよく使うが、町ではしっかり活用されているか。那賀町の人が実際に町外へPRに行くことが大切だと思うが、可能か。

下内孝治にぎわい推進課長

A 那賀町ではポスターやパンフレット等を観光施設に展示したり、ホームページなどのSNSで情報発信している。TikTokに関しては研修を行い、効果的なPRができるよう努める。町外へのPRは、イベントなどに参加し、特産品の販売や宣伝を行い、那賀町の周知活動に取り組んでいく。

緊急災害対策について

Q 大雨時に通行可能な道が分からないが、情報共有はいかに。災害発生時、情報共有はどれぐらいの時間でされるのか。その際、町から那賀高校にも伝達は可能なのか伺う。

根本屋彰文防災課長

A 県及び町の関係機関が情報共有し、ケーブルテレビ放送や宅内の告知放送などで周知しており、できる限り速やかに情報提供できる体制を取っている。登下校時に影響がある場合は、直接連絡できるような配慮をしていきたい。



原田広大高校生議員

SDGsについて

Q 上勝町はゴミに関する取組をされているが、那賀町におけるSDGsの取組はいかに。また、エシカルクラブで、服の回収や那賀町の小中学校へのレクチャーをしたのだが、御協力いただけないだろうか。

北谷楨文環境課長

A 新たなごみ処理施設のクリーンセンターを建設し、運用を開始していることが那賀町における取組と考える。学校や町の環境、福祉、教育、子育て等の担当部局が連携し、エシカルクラブを後押しできるように、宣伝や教育、場所の提供等、協力を検討したい。

那賀町の歴史調査について

Q 人口が減って歴史や伝統が消えてしまう前に記録に残してほしい。そして那賀町の「古屋岩陰遺跡」「仁宇山城跡」等の隠れた歴史をアピールされては。町外の方々に知ってもらえるよう、ネットで歴史マップを追加されてはどうか。

高岡勇人教育次長

A 地域の歴史・文化・伝統行事の継承の一方策として、小中学校において「ふるさと学習」として取り組んでいる。旧町ごとの町誌が残されているので、歴史マップも含め、インターネットへの掲載方法等について検討したい。

ドローンについて

Q ドローンを林業に使っているところをニュースで見たことがあるが、林業以外で活用されているのか。以前「ドローンの町」と那賀町をPRしていたが、現況はいかに。また災害時に土砂崩れで道路が寸断され、陸の孤島と化してしまう集落があるが、ドローンを使って救援物資を送られては。

三好俊明まち・ひと・しごと戦略課長

A 植生の活性化調査、水田及び果樹園の農業散布、構造物の測量及び現場の写真撮影等に活用することにも、ドローンマップや講習会を行う「ひと・しごと・PR」を行っている。今後災害時利用についても推進していく。

